土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　　査　　名　一級河川　江の川水系　下領家右下谷通常砂防工事に伴う測量設計業務委託(地質調査)

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象　砂防 砂防

ボーリング名	Bor.No.2	**調査位置**	広島県庄原市総領町下領家　地内			**北緯**	34° 47′ 12.7457″
発注機関	広島県北部建設事務所　庄原支所			**調査期間**	2019年　1月 23日 ～ 2019年　1月 24日	**東経**	133° 04′ 23.9387″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**		**ボーリング責任者**	
孔口標高	T.P. 329.93m	**角度**	180° 上下 90° 0° 0°	**方位**	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	**地盤勾配**	水平0° 鉛直 90° 15°	**使用機種**	
総削孔長	5.00m							**試錐機**	東邦地下工機　D1-C
								エンジン	ヤンマー　NFD-12	**ポンプ**	東邦地下工機　BG3-C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事	孔内水位／測定月日
1	329.18	0.75		礫混じり粘土		暗褐			新生代第四紀	土石流堆積物に該当。やや有機質な細粒土に、ごく少量～微量の細礫分を含む。混入する礫径は10mm程度以下である。	01/24 1.10
	328.48	1.45		礫混じり粘土質砂		褐	rd3			土石流堆積物に該当。φ50mm程度までの角礫を豊富に含む。数mm径の小岩片も多い。1mの貫入試料は低含水である。	
2				風化安山岩		黄灰～灰			中生代白亜紀	大塊の岩片状コア主体。全体に脱色が進み，黄灰色が強い。岩芯風化を伴うものの，岩片は中硬質な硬さを保つ。割れ目はランダムに発達し，砕片化を伴うことが多い。CL級岩盤に相当する。3.25～3.4m間，上盤側60°，下盤側40°で脈状に強く劣化する。変質破砕帯様である。	
3	326.33	3.60									
4				風化安山岩		暗灰				岩芯風化は弱まり，岩本来の色調が強くなる。短柱状コアが主体をなす。岩片は新鮮でやや硬い。割れ目に沿って角礫化することがある。CM級岩盤に相当する。	
5	324.93	5.00									

標準貫入試験

深度－N値図（0 10 20 30 40 50）

深度 (m)	N値	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
1.15	14	4	4	6	14/300		
1.45		50/70			50/70	70	
2.00	214						
2.07		50/10			50/10	10	
3.00	1500						
3.01		貫入不能			50/0		
4.00							
4.00		貫入不能			50/0		
5.00							
5.00							

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	原位置試験	削孔月日
					1/23
					1/24